

令和3年度 第1回 安曇野市水環境審議会 会議概要

1	審議会名	令和3年度 第1回 安曇野市水環境審議会
2	日 時	令和3年6月2日 午後2時00分から午後3時50分まで
3	会 場	安曇野市役所3階 全員協議会室
4	出席者	遠藤委員(会長)、村上委員(副会長)、中屋委員、保尊委員、丸山委員、増田委員、山地委員、岡江委員、高原委員、宮澤委員
5	市側出席者	宮澤市長、山田市民生活部長、山口環境課長、百瀬環境保全係長、藤原環境保全係主査
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	0人 記者 3人
8	会議概要作成年月日	令和3年6月7日

協 議 事 項 等

次第

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 自己紹介
- 4 報告・説明
 - (1) 当審議会と水環境基本計画及び行動計画について
- 5 会長及び副会長の選出
- 6 会議事項等
 - (1) 点検・評価について
 - (2) 水環境基本計画・行動計画の改定・策定方針について
 - (3) 水環境基本計画・行動計画の策定に係るスケジュールについて
- 7 その他
 - (1) 次回(第2回)の審議会開催日時について
- 8 閉会

会議概要

- 1 報告・説明
 - (1) 当審議会と水環境基本計画及び行動計画について
【事務局から、当審議会、水環境基本計画・行動計画の概要等について報告・説明】
- 2 会長及び副会長の選出
【会長に遠藤委員、副会長に村上委員がそれぞれ選出された】
- 3 会議事項等
 - (1) 点検・評価について
【事務局から、令和2年度事業の評価等を中心に説明】

・ 以前の水資源対策協議会では、委員の中に国の機関の関係者等も含まれていたが、この水環境審議会の中には含まれていない。安曇野市内部だけでは解決できないような問題もあるため、国の機関の関係者等も含めてはどうか。

⇒今後の審議の中で必要性が生じた場合には、国の機関の関係者等にも出席を依頼していきたいと思う。

- ・資料の5ページに黒沢川とあづみの排水路が接続された場合、417万 m^3 /年が、あづみの排水路の新たな地下水涵養効果と試算されている。計画では、令和3年度の人為的な地下水涵養量の目標が150万 m^3 /年、令和8年度の目標が300万 m^3 /年となっている。このことから、令和8年度の目標もクリアされるわけだが、事務局はこのことについて、どのように捉えているのか。

⇒417万 m^3 /年という数値は、昨年度の2月の1日間の流量を基に算定したものとなっている。1年を通してみれば、時期によって流量も変動していることが考えられるため、今年度は職員が毎月調査を行っている。この調査の結果や、今後の水環境基本計画の見直しに係る議論等を踏まえ、企業等の再涵養や節水などに軸足を移していくのか、どういった方向に舵を切っていくのか、委員の皆さんとともに検討を進めていきたいと考えている。

- ・冬場の水位低下について、どのように対応していくかが今後の課題だと思っている。
- ・黒沢川表流水があづみの排水路に流入することによる地下水涵養量が417万 m^3 /年であるという試算に驚いた。この試算のとおりだとすると、目標は達成ということになる。計画における令和8年度の300万 m^3 /年という目標数値に関しては、高いレベルの目標、中間の目標、抑え目の目標という3つの案があって、その中間の数値が300万 m^3 /年ということだった。この目標が達成されるのであれば、これまで涵養に力を入れていた部分を、黒沢川の流量増加に向けた方策や節水に力を振り向けていくという形も考えられる。

(2) 水環境基本計画・行動計画の改定・策定方針について

【事務局から、今後の計画の改定・策定方針について説明】

- ・改定案については、事務局のほうで原案を作成するというだけでよいか。

⇒次回審議会においてお諮りするるので、委員の皆さんから御意見をいただきたいと考えている。

(3) 水環境基本計画・行動計画の改定・策定に係るスケジュールについて

【事務局から、今後のスケジュールについて説明】

- ・資料の事前送付は、会議の2週間くらい前までに可能か。

⇒可能な限り、そのようにさせていただく。

【副会長から各委員に、これまでの内容全般に関して質問等はないか発言あり】

- ・昨年度の2月に黒沢川の流量調査を行ったということだが、これまでに黒沢川や、他の川の流量を測定したことはないのか。

⇒かつて、烏川、穂高川に関して涵養について調査した経緯があるということは聞いている。黒沢川については昨年度の2月以外に行ったことはない。今年度は、4月から毎月流量調査を行っていく。

- ・川でどのくらい涵養がされているかといったデータはないということか。

⇒そういったデータはない。

- ・他の自治体では、川の河床を改良することによって水の浸透を増やす取組を行っている。川からの浸透量が多いので、黒沢川だけでなく、他の川での調査も検討してみてよいのではないか。

⇒河床の改良に関しては、河川事務所等に確認をしてみたいと思っている。

- ・黒沢川以外にも流量の多い川はある。そういった川も調査の対象として扱ってもよいのではないか。

⇒検討したいと思う。

- ・涵養施策など、わさび田の水位低下に対する対応策について、データに基づいた効果のある取組を計画に反映してもらいたい。

- ・効果がどの程度、目に見えて現れるかという点に関してはやってみないと分からない面があると思う。しかし、涵養をやってマイナスになることはない。

- ・現場を見る機会があれば、理解も深まるのかなと思っている。

- ・黒沢川表流水があづみの排水路に流入すると、地下水涵養効果が 417 万 m³/年になるという試算について、この検証はどのように行うのか。また、令和 2 年度の地下水一斉測水調査の実施により、地下水賦存量に関して豊水期は約 54 億 m³、渇水期は約 53 億 m³と試算されたということだが、この試算はどのように行ったのか。

⇒地下水涵養効果の検証については、民間事業者の力も借りながら行っていく。また、地下水賦存量調査については、市が所有している井戸と市民が所有している井戸、計 20 か所において水位測定を昨年度の 8 月と 2 月に 2 回行った。この調査結果と平成 27 年度の水位を比較し、地下水賦存量を算出した。

- ・次回の会議には、地下水涵養効果 417 万 m³/年の試算と、令和 2 年度の地下水一斉測水調査の結果から算出された地下水賦存量の試算について、その試算方法が分かる資料を用意いただきたい。

- ・水量に関する議論は大事だが、一般の方はあまり関心がないと思う。水量を含め、水資源全般について、その重要性を市民に PR する活動も大切ではないかと考えている。

- ・市民に関心をもってもらうための仕組みづくりが大切である。

- ・水をただ流すのではなく、田んぼなどを活用して涵養に取り組んでいくことが重要だと思うが、さまざまな規制などがある中で、なかなか難しい面もある。

- ・今回、瀬掘りという新しい考え方も提案された。こういった取組も次回以降に議論できればと思う。

4 その他

(1) 次回（第2回）の審議会開催日時について

【事務局から、次回の開催予定日時（8月4日（水）午後2時から）について連絡】

- ・意見等は特になし。

<終了 15:50>

以上